

第 19 回世界石油会議 マドリード大会報告会 報告集



2008 年 8 月

世界石油会議 日本国内委員会



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



..... 目次

開会にあたり.....	1
1. 日本国内委員会報告会プログラム.....	3
2. 第19回世界石油会議マドリッド大会概要.....	5
3. 世界石油会議 評議会 (C07)	7
4. 世界石油会議 評議会 (C07) 議事メモ.....	11
5. 大会概要.....	13
6. 全体会議.....	39
7. 技術プログラム.....	45
8. 大会出展報告.....	101
9. 大会総括.....	123
閉会にあたり.....	125
補足資料	
補足1 大会刊行物リスト.....	127
補足2 大会プログラム.....	129
補足3 大会参加者.....	133
補足4 大会報告にご協力頂いた皆様.....	135

開会にあたり

会長 渡文明

6月29日から7月3日まで開催されました第19回世界石油会議マドリッド大会には、日本から97名もの多数の皆様にご参加いただきました。会長として厚くお礼申し上げたいと存じます。

さて、今回の会議は、全体では前回のヨハネスブルグ大会を大きく上回る4,300人の参加がありました。今回の会議においては、IEAの田中事務局長に加え、産油国からは、サウジアラビアのナイミ石油大臣、カタールのアッティヤ・エネルギー大臣などの首脳が参加し、原油価格やエネルギー情勢について議論が交わされました。これは、かつて石油開発や石油精製の技術的な検討の場として開催されてきた世界石油会議が、より広範なテーマを取り上げる場へと変わった証ではないかと考えております。

さらに、企業の社会的責任に関しても、従来からの環境問題を中心としたテーマに加え、人権への配慮や女性の進出といった大手石油企業のマネジメントに関する問題も取り上げられました。このように、報告会でご報告すべき内容は非常に多岐にわたるものですが、限られた時間の中で効率よくご説明できるような構成としてあります。このご紹介でさらにご関心をもたれたテーマがあれば、事務局までお問い合わせいただくと幸いです。

2011年に開催される次回ドーハ大会は、中東湾岸地域で開催される初めての世界大会です。日本国内委員会としては、次回大会の成功に向け積極的に協力していくとともに、今回の大会以上に日本からの情報発信を増やし、わが国が有する世界最先端の環境技術や省エネ技術への認知を従前にも増して図り、地球環境の保全やエネルギー需給の安定化などの国際的課題の解決に貢献していきたいと考えています。我々日本国内委員会の協力により、次回大会が大きな成功を収めることができれば、中東諸国とわが国の絆の一層の強化にも寄与するものと確信している次第です。

次回、ドーハへはより多くの参加者を募り、今回以上に内容のある議論がなされるよう、力を尽くしたいと考えております。この点に充分ご理解をいただき、今後とも日本国内委員会をご支援いただきますようお願い申し上げます。

以 上

日本国内委員会 報告会プログラム

2008 年 8 月 26 日
経団連 1001 号室
13:30～17:40
(敬称略)

- 13:30 開会の挨拶
会長 渡 文明
来賓挨拶
経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部長 北川 慎介
- 13:40 マドリッド大会概要 国内委員会事務局
- 13:55 全体会議
副会長 関 誠夫
千代田化工建設株式会社 横井 悟
- 14:10 技術プログラム
(1) 石油開発
新日本石油開発株式会社 高橋 史朗
独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 渡邊 朋子
帝国石油株式会社 滝本 俊明
＜質疑応答＞
- 14:55 コーヒーブレイク
- 15:10 (2) 石油精製
新日本石油株式会社 安達 博治
コスモ石油株式会社 松村 秀登
日揮株式会社 岩井 龍太郎
- 15:55 (3) 天然ガス・再生可能エネルギー
新日本石油株式会社 岡崎 肇
独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 渡邊 朋子
独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 古幡 哲也
- 16:25 (4) 産業マネジメント
千代田化工建設株式会社 亘理 隆三
財団法人日本エネルギー経済研究所 永田 安彦
- 16:55 展示 千代田化工建設株式会社 細川 晃
＜質疑応答＞
- 17:10 総括 副会長 菊地 英一
- 17:20 閉会の挨拶
副会長 相岡 雅俊

以 上

第 19 回世界石油会議マドリッド大会概要

2008 年 7 月

世界石油会議日本国内委員会

1. 期 日：2008 年 6 月 29 日（日）～7 月 3 日（木）

2. 会 場：IFEMA（スペイン・マドリッド市郊外）

3. 参加者：約 4,300 名

（うち閣僚 35 名、企業役員約 500 名、日本からは 97 名参加）

4. 概 要：

約 90 のセッションで、石油・天然ガス開発、精製技術、環境から、企業の社会的責任等、各テーマについて幅広い議論が展開された。主な注目点は次のとおり。

- （1）原油情勢：OPEC の主要閣僚と IEA（田中事務局長）を中心に議論が行われた。OPEC は、一定の原油生産能力拡張を表明、IEA は先進国の省エネの徹底と途上国のエネルギー効率の向上の必要性を指摘し、双方は金融市場からの原油価格への影響を非難するとともに、需給もタイトであることから、問題解決のための対話の必要性を強調した。また OPEC は、原油価格への地政学上の影響も大きい、と述べた。
- （2）石油資源：石油・ガス資源の将来については、産油国、メジャーズともにまったく悲観論はなく、石油資源ひいては石油産業は、未来にわたって希望に満ちた産業であるとの見解が圧倒的であった。
- （3）環境問題：地球環境問題に関しては、長期的には省エネルギーと代替エネルギーの開発が重要との認識で一致したが、短期的には、排出量取引や CCS（二酸化炭素固定化）に対し、積極的な欧州と、やや消極的な米国、アジアとで見解の一致は見られなかった。また、石油産業には、依然としてエネルギー効率の向上を中心に対応を求める声が強かった。
- （4）石油精製：新しい精製技術として、残渣油の分解技術、非在来型石油資源の製油技術、深度脱硫技術、操業技術を中心とした製油所の効率化、ガソリン・軽油生産のフレキシブル生産技術等に関する報告があった。また、製品技術としては、低硫黄化、バイオ燃料などに関する報告があった。日本は、千代田化工からユリカプロセスの新展開（連続運転化）に関する報告があった。バイオ燃料については、石油企業として地球温

暖化対策・輸送用燃料多様化の観点から活用は必要としているが、ライフサイクルや食料への影響を考慮すると第 2 世代バイオを基本とする見解が示され、このためコストパフォーマンスのある技術開発が必要という点で一致した。

- (5) 環境技術：従来の環境問題の捉え方でなく、石油企業は、持続性ある発展や社会的責任を果たすため何をすべきかに関する討議が中心であった。特に石油メジャーは、文字どおり石油・天然ガス開発、精製、石油化学、販売とグローバルな事業展開を図っており、株主への配慮はもとより、政府、地域社会、住民に対しての企業の事業展開について、透明性、客観性のある説明とその評価を重要視しており、企業トップがそれを先頭になって推進している。また企業は具体的な活動とその成果を示す手段としてCSRを開示している。
- (6) その他：従来になく、企業の社会的責任、環境への配慮を問うセッションが多くもたれた。企業活動の透明性の基準となる、ISO 26000 の取得が、今後議論されていくものと思われる。

5. 日本国内委員会の活動

- (1) ブース展示：会員各社（10 学協会）の英文パンフレット等を配布。また、わが国でのバイオ燃料への取り組みをパネルで紹介した。
- (2) 日本大使公邸での昼食会：6 月 30 日、吉川在スペイン大使主催の昼食会があり、正副会長が出席して意見交換が行われた。
- (3) レセプションの開催：6 月 30 日夕刻から、マドリッド郊外で開催。日本人約 100 名のほか、以下の参加があった。
バリドン WPC 副会長ご夫妻、マーチン WPC 副会長ご夫妻、
吉川在スペイン大使、田中 IEA 事務局長、英国国内委員会、
ウルグアイ国内委員会
- (4) カタール・アティヤ大臣と正副会長の会談は、大臣が急遽帰国されたため、実現できなかった。
- (5) 次回、カタール大会（2011 年）の内容を決定するプログラム委員会（CPC）委員に山浦専務理事が立候補し、当選（14 カ国中、11 カ国が当選）した。今後、年 2 回程度の会合が予定されている。

以 上



第19回世界石油会議(WPC) 評議会(C07)

世界石油会議日本国内委員会
事務局 西垣 憲司

日時: 2008年6月29日(日) 14:00-17:00
場所: メリア・カスティーリャホテル・大会議室

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



世界石油会議 (World Petroleum Council) の構造 (参考)

WPC(=各国国内委員会で構成)

|
評議会 (Council = 毎年開催) : 憲章改正、世界大会 (Congress = 3年毎開催)、地域大会の開催地と日時の選択、予算その他を決定する最高意思決定機関

|
執行委員会 (Executive Committee = 少なくとも年2回開催)
毎年の評議会間のWPCに関する諸問題の調整・指導

|
大会プログラム委員会 (Congress Programme Committee):
世界大会の開会・閉会・ソーシャルイベントを除いた全てのプログラムの展開、制作について責任を負う

|
事務局 (Secretariat = ロンドンに設置)
評議会とその他委員会の会合の監督、決定事項の実施等



評議会 (C07)

- R.ゴッセン会長挨拶
- 前回評議会 (C06ウルグアイ開催) 議事録承認
- 新規加盟国承認 (カザフスタン、スロベニア)
- R.ゴールドマン財務担当副会長より
WPC財務状況報告
- 2008年見通し: 第19回WPC開催費用を含むが、経費は概ね予算どおり、参加登録料、展示費用収入見込みは予算より多く、結果一般財源残高は増加
- 2009年予算案 (事務局長付託): 2008年比3%増



評議会－WPC執行部改選

- 会長：無投票当選ランディ・ゴッセン(カナダ)
- 上席副会長：同上ジョゼフ・トス(ハンガリー)
- 副会長5名
- 財務担当：ジョン・マーチン(UK)＜無投票＞
- マーケティング：ウ・ヤオウエン(中国)＜無投票＞
- 会員担当：アナトリー・ゾロツキン(露)＜無投票＞
- プログラム担当：2人立候補 電子投票(2/3得票)
レナト・ベルターニ(ブラジル)当選、サウジ落選
- ユース&ジェンダー：3人立候補
デニシュ・クマール・パンデ(インド)当選、
フランス、ルーマニアは落選

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



評議会－WPC執行部改選

- CPC(大会プログラム委員会)メンバー選出
- 14人が立候補(11人当選)
- 評議会出席国が、配布の投票用紙に11人を
マーキングし、それを集計
- 日本国内委員会の山浦候補当選
- 他の10カ国：カナダ、中国、フランス、ドイツ、
インド、ノルウエー、オランダ、ロシア、イギリス、
アメリカ
- 落選：フィンランド、ハンガリー、ルーマニア

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



評議会、展示会場など

- 評議会終了後 Dr. Pierce Riemer (事務局長)から
“お帰りなさい”との声(他に大会中、日本ブースに立ち寄った独国内委員会の女性からも同趣旨の声をかけられた)
- また、Ms. Ulrike von Lonski (Director of Communications) から CPCメンバーとなった山浦専務に対し、日本での会議開催について考えて欲しい旨のアプローチあり (山浦専務から、持ち帰って検討する旨回答)
- ユース委員会メンバーDr. Cao Hong (Senior Geophysicist ペトロチャイナ)が、日本ブース来訪、アジアのユースメンバーとして、日本、韓国の参加呼びかけ(国内委員会に伝達する旨回答)

17TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



世界石油会議 ウェブサイト

<http://www.world-petroleum.org>

世界石油会議 評議会 (C07) 議事メモ

2008 年 6 月 29 日 14:00-17:00

於: マドリッド

メリヤ・カスティリャ・ホテル 大会議室

- 1 議事次第に従いゴッセン会長挨拶、前回ウルグアイ評議会の議事録承認、カザフスタン、スロバキアの新規加盟承認等について財務担当副会長（ロバート・ゴールドマン）から財務状況の報告があった。

2007 年監査報告、2008 年見込み、2009 年事務局長付託予算案、2008 年財務諸表に対する外部監査、同副会長担当の実績、等が提出され承認された。概要以下のとおり。

2007 年、WPC は 227,000 ポンドの赤字を出しているが、これは当初予算の赤字見込みより 25,000 ポンド多い。徴収不能会費、産業遺産の文書化に伴う出費等が主要原因。結果、年末の一般財源（General Fund）残高は 2006 年末の 649,000 ポンドから 422,000 ポンドとなった。

2008 年予算は今回の 19 回大会費用を含むものだが、昨年の評議会で 154,000 ポンドの剰余金を出すことで承認されている。今回大会の経費見込みは予算金額に近い 412,000 ポンドと見込まれ、一方会議参加登録及び展示費用収入見込みは予算（566,000 ポンド）より多い 731,000 ポンドと見込まれる。ユーロ高や幾分高い会議登録料およびその累進性導入なども寄与して一般財源残高は増加した。

2009 年予算案を事務局長が付託したが、ここでは大会のない年として 181,000 ポンドの収入を見込んでいる。一方 2009 年の支出は 423,000 ポンドで今年比約 3%の増加を見込んでいる。主たる理由は給与や旅費などインフレによる増を見込んでおり、この 2 つが 2009 年支出の 2/3 を占める。

- 2 休憩後、次回 2011 年の第 20 回世界石油会議カタル大会に向けて、WPC 執行部の改選を行った。最初に役員指名委員会から投票方法の説明があり、役員ごとの選出に入った。

会長：立候補が現会長一人で無投票選出⇒ランディ・ゴッセン（カナダ）

上席副会長：立候補が一人で無投票選出⇒ジョゼフ・トス（ハンガリー）

副会長 5 名

財 務 担 当：立候補が一人で無投票選出⇒ジョン・マーチン（イギリス）

マーケティング担当：立候補が一人で無投票選出⇒ウ・ヤオウエン（中国）

会 員 担 当：立候補が一人で無投票選出⇒アナトリー・ゾロツキン（ロシア）

プ ロ グ ラ ム担当：立候補が二人で電子投票（2/3 の得票で有効）

レナト・ベルターニ（ブラジル）31 票とフサイン・スナイディ 15 票で前者当選

ユース&ジェンダー：立候補が三人で電子投票（同上）

デニシュ・クマール・パンデ（インド）が 3 回目の投票で過半数を獲得し当選

フランスとルーマニアの候補が落選

CPC メンバー選出：（投票用紙にマーキング）14 人が立候補し 11 人選出

山浦候補選出、他の 10 カ国はカナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、ノルウ

エー、オランダ、ロシア、イギリス、アメリカ

落選したのは、フィンランド、ハンガリー、ルーマニア

ユース委員（立候補者全員無投票当選）を確認

以上



マドリッド大会概要

19th World Petroleum Congress

A World in Transition : Delivering Energy for Sustainable Growth
—過渡期の世界:持続可能な成長のためのエネルギー供給—

世界石油会議日本国内委員会
事務局 西川 輝彦



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



報告概要

1. 国内委員会現地活動
 - * スペイン組織委員会主催レセプション出席
 - * 展示場内ブース設置
2. オープニングディナー
3. 開会式
4. 国内委員会正副会長現地活動
 - * 展示ブース巡り
(世石正副会長・石連会長、エネ庁資源・燃料部長)
5. 在スペイン大使と懇談ランチ
6. 国内委員会主催レセプション
7. プログラム
8. 閉会式



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

1. 国内委員会現地活動
* スペイン組織委員会レセプション



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

1. 国内委員会現地活動
* スペイン組織委員会レセプションで各国国内委員会との接触



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

1. 国内委員会現地活動

* マドリッド大会会場 FERIA de Madrid



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



1. 国内委員会現地活動

マドリッド地図

日本国内委員会
レセプション会場
CASTILLO DE VINUELAS

市内からの移動はJT
Bシャトルバス・大会
運営のWPCバスにて
会場へ移動約20分

マドリッド市内



世界石油会議
世界大会会場
FERIA DE
MADRID

15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



1. 国内委員会現地活動～展示場内ブース設置
6月27日(開催3日前) パビリオン7 ブース関連機材搬入後



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



1. 国内委員会現地活動～展示場内ブース設置
6月27日(開催3日前) パビリオン9 ブース建設中



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



1. 国内委員会現地活動～展示場内ブース設置
6月29日(開催2日前) ハビリオン7 ブース建設中



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



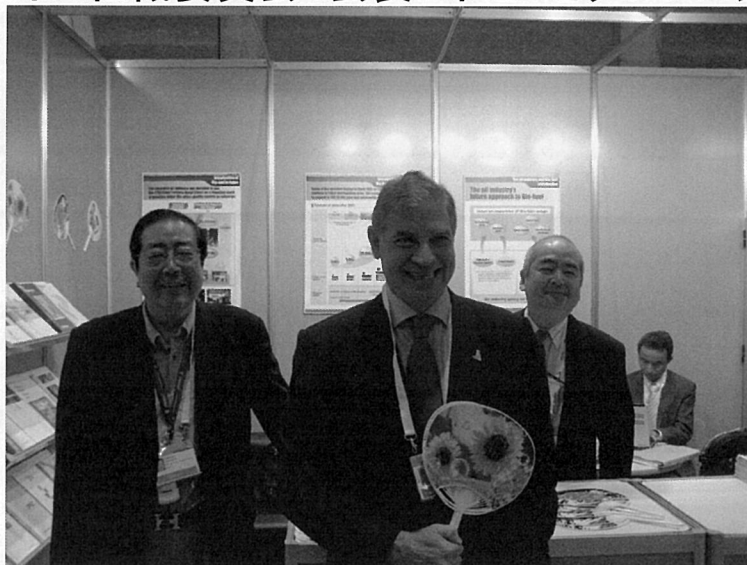
1. 国内委員会現地活動～展示場内ブース完成
国内委員会ブース設置(面積15㎡)(ブース来場者約2500名)



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



1. 国内委員会現地活動～展示場内ブース完成
スペイン組織委員会 会長 ホセ・セグレレス氏



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

2. オープニングディナー
着席形式でのオープニングディナー



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

2. 開会式

特別ゲスト(ホセ・カレーラス氏)

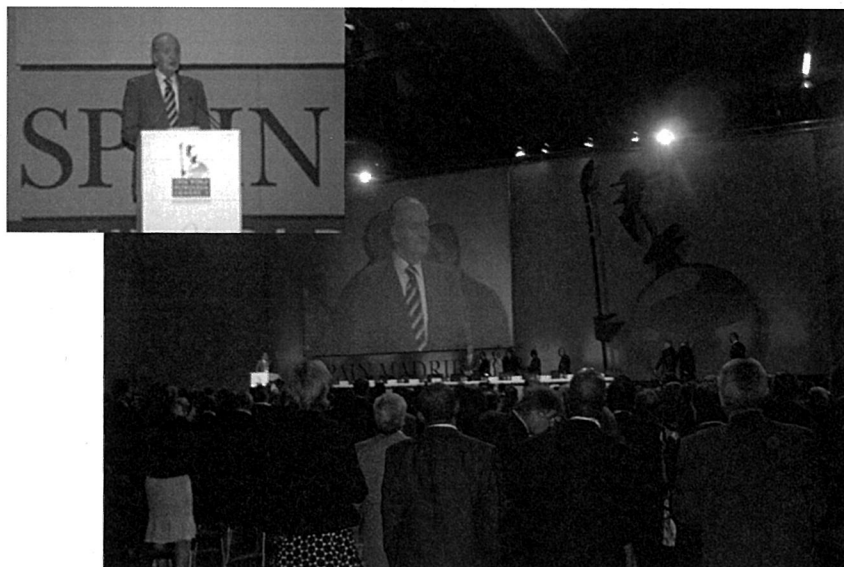


15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



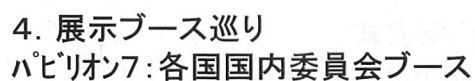
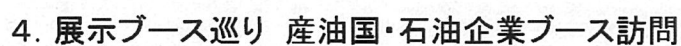
3. 大会プログラム開始 開会式

スペイン国王 ファン・カルロスⅠ世 陛下



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS





①	カタール	アブドラ・ハッサン・サラット国内委員長(カタール国営石油・石油大臣顧問)
		イッサ・アリ・ガニーム次回世界石油会議 ドーハ大会代表(カタール国営石油 政策企画部)
		アル・シディキー取締役(カタール石油(6月30日20:00 日本国内委員会主催 レセプション参加)
②	サウジアラビア	ファイサル・ビン・トルキー国内委員長(石油鉱物資源相顧問)
		フサイン・アル・スナイディ マドリード大会プログラム委員(研究開発センター・マネジャー)
③	イラン	ゴーラムホセイン・ヌザéri国内委員長(イラン国営石油 常務取締役)
		ホマヨン・モティエイ国内委員会事務局長(NIOC 研究開発技術室長)
		ムハンマド・アリ・エマディ マドリード大会プログラム委員(イラン国営石油 副社長)
④	クウェート	スレイマン・アル・オマーニ国内委員長(クウェート石油省)
⑤	中国	ワン・タオ世界石油会議 現副会長 兼 国内委員長 (CNPC上級副社長)
		ウー・ヨウウェン(中国石油ガス勘探開発 会長)





4. 展示ブース巡り パビリオン9: 展示ブース

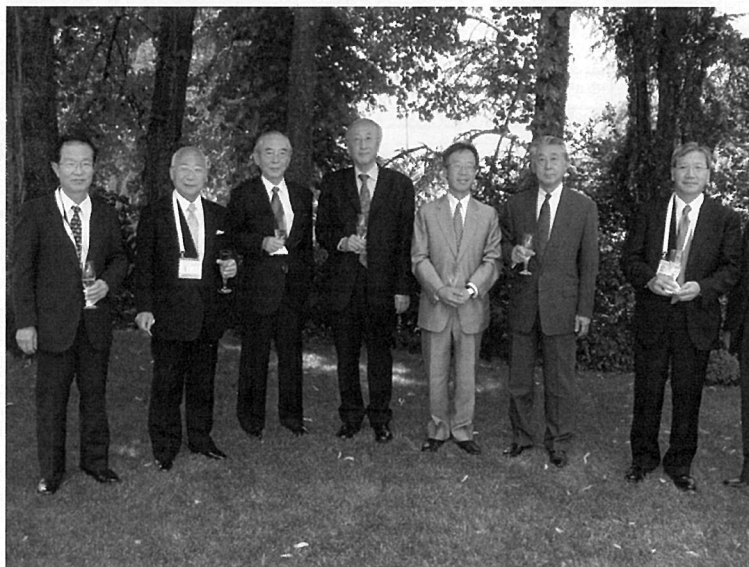
⑥	レブソル	ホルヘ・セグレレス(世界石油会議 スペイン組織委員会委員長・レブソル 会長)
		ネメシオ・フェルナンデス・クエスタ((上流部門常務)
⑦	CHEVRON	デビット・オライリー会長
⑧	SINOPEC	蘇 樹林(スシュリン)総経理
⑨	SINOCHEM	劉 徳樹(リユウ デシュ)総裁
⑩	CNPC	蔣 潔敏(ジャン ジエミン)総経理
		CNPCグループのチャイナオイル 王 立華(ワンリイファ)総裁
⑪	CNOOC	傅 成玉(フ チェンギョ)総経理
⑫	千代田化工	
⑬	JOGMEC	



4. 展示ブース巡り サウジアラムコ Dasgupta 氏と



5. 日本大使公邸ランチ
在スペイン王国駐節 特命全権大使 吉川元偉氏



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



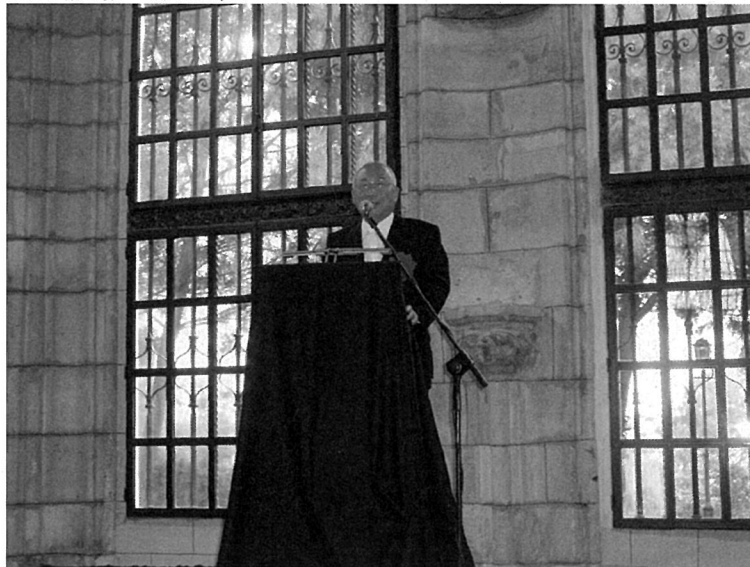
6. 国内委員会主催レセプション(Castillo De Vinuelas)



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会主催レセプション
開会の挨拶 渡会長



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



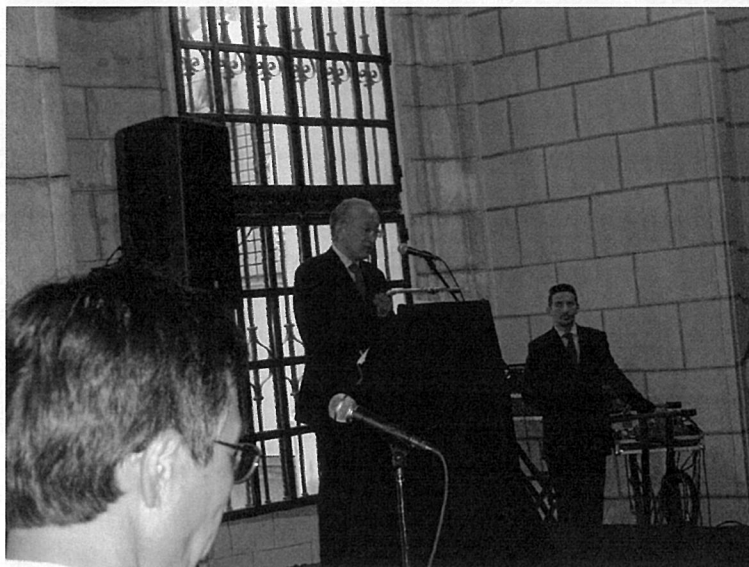
6. 国内委員会主催レセプション
乾杯の挨拶 梶岡副会長



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



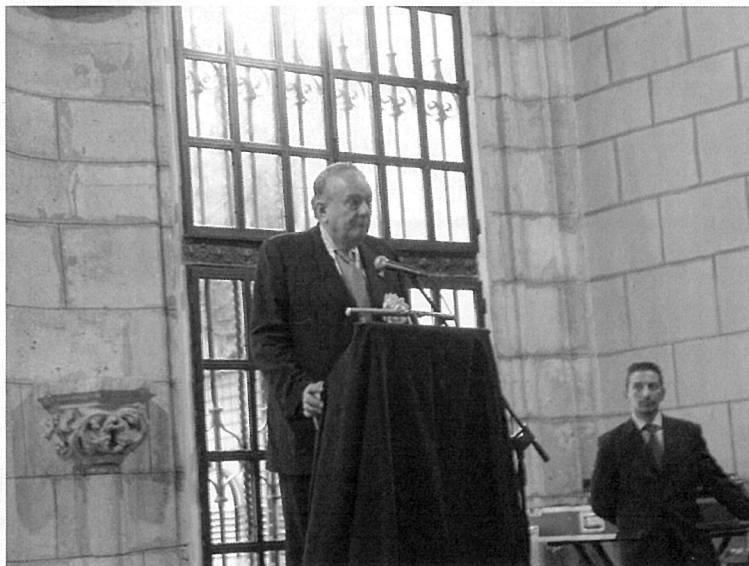
6. 国内委員会主催レセプション
IEA田中事務局長ご挨拶



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会主催レセプション
WPC上級副会長 ペドロ・バリドン氏(ウルグアイ国内委員会)

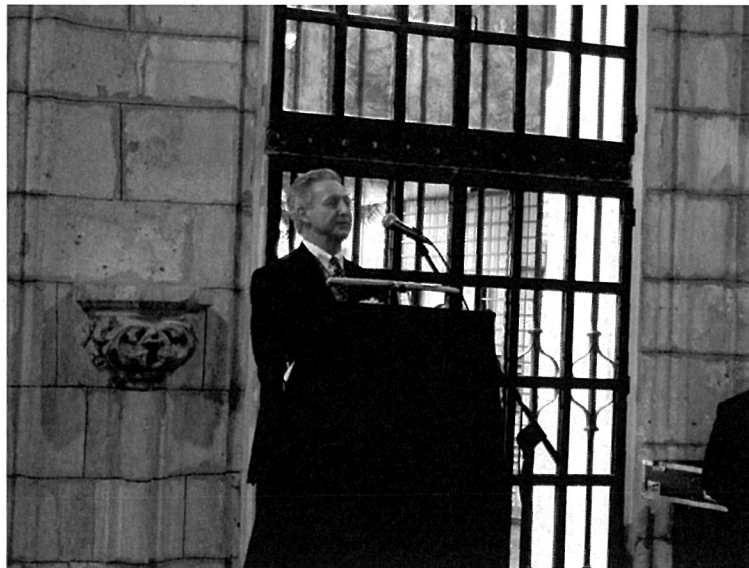


19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会主催レセプション

WPC副会長財務担当 ジョン・マーティン氏(英国国内委員会)

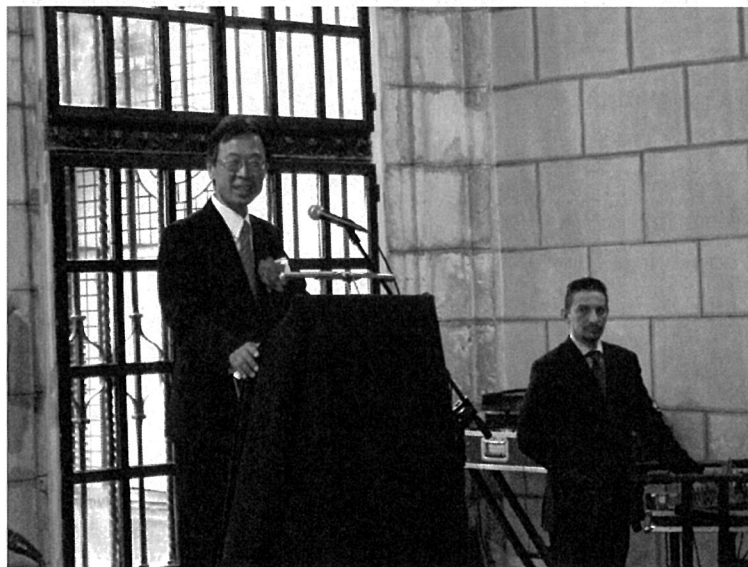


19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会レセプション

在スペイン王国駐劔 特命全權大使 吉川元偉氏



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会レセプション
懇談風景



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

6. 国内委員会主催レセプション
懇談風景



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

6. 国内委員会主催レセプション
IEA田中事務局長



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会主催レセプション
ウルグアイ国内委員会と関副会長



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会主催レセプション

WPC副会長財務担当 ジョン・マーティン氏(英国国内委員会)



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



6. 国内委員会主催レセプション

会場外での懇談



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS





構成：7つの全体講演、4つのブロック(上流部門、下流部門及び経済学、天然ガス及び再生可能エネルギー、投資とサステナブル)、各ブロック内に基調講演計は、ラウンダーブーン計は、フォーラム計は、7つのスペシャルセッション、パネラー、パネリスト、モデレーター及び司会者、オープニング・ディナー、2日目(金)の午後のセッション、2日目(金)の夜間のセッション、閉会式及びパレード、最終講演等。

[illegible]

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



構成：7つの全体講演、4つのブロッック(上流部門、下流部門及び石化系、天然ガス及び再生可能エネルギー、産業用デジタル化)、各ブロッック毎に基調講演計11、ラウンドテーブル計12、フォーラム計23、7つのスペシャルセッション
 ソーシャルイベント 8月25日(日)12:00～ オープニング・ディナー、7月1日(土)12:00～スパニッシュ・アペ、7月2日(日)12:00～閉会式(デムナー2と重複実施中)

[illegible]

18TH WORLD PETROLEUM CONGRESS 9



7. プログラム構成

セッション構成

全体講演 & 公式ランチ

基調講演 & キーノート

フォーラム & ポスターセッション

ラウンドテーブル

スペシャルセッション

行政・政府セッション

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



7. プログラム構成

全体講演(プレナリー)	7
行政・政府セッション	18
スペシャルセッション	7
BP統計レビュー	1
公式ランチ	4

技術セッション	フォーラム	基調講演	ラウンドテーブル
1. 上流部門(石油開発)	6	3	3
2. 下流部門(石油精製)	6	3	3
3. ガス&再生エネルギー部門	6	3	3
4. 産業管理部門	6	3	3

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

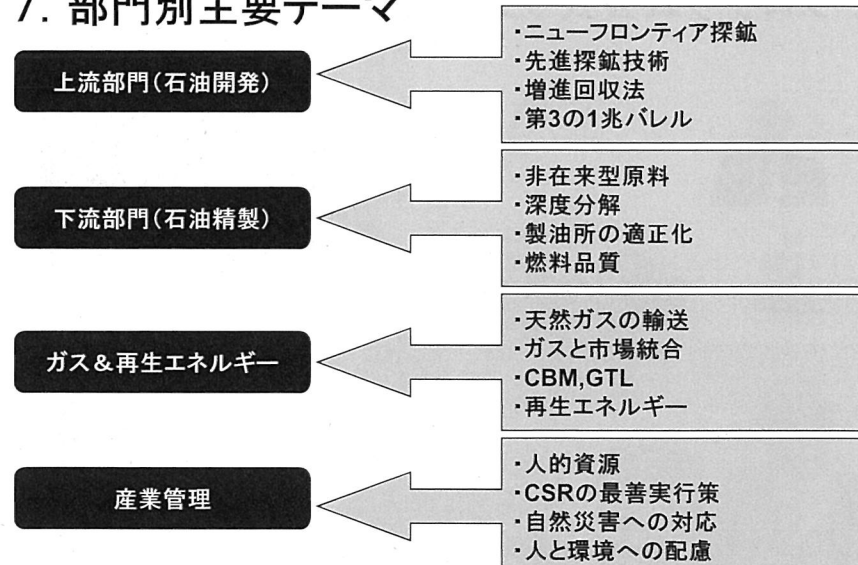


7. 分野別発表数

セッション	参加者
全体講演 公式ランチ 行政・政府セッション スペシャルセッション	スペイン国王、スペイン・欧州の有識者、欧州政府高官、OPEC事務総長、IEA事務局長、16-20CEO、12-13政府要人、20-25政府高官、企業役員、政府関係者、NGO
基調講演	議長 12名 講演者 27名
ラウンドテーブル	司会者 12名 討論者 60名
フォーラムペーパー(1338の論文応募)	議長及び副議長 72名 講演者 120名
フォーラム&ポスター(484のポスター応募)	ポスター報告者 240名
最大600名の参加者	

15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

7. 部門別主要テーマ



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

7. プログラム セッションの状況(バイオ燃料)



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



7. プログラム公式ランチ OPEC/IEAランチ



Opec's Abdulla El-Radri and IEA executive director Nobuo Tanaka

15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



7. プログラム

公式ランチ OPEC/IEAにおける主な論点

1. OPECの主張

- OPECは需要を完全に満たし、さらに余剰能力も確保している
- 2020年までには、3,000億ドル以上を投資して、OPECの原油生産能力を3,800万BDに拡張する
- 現在の原油高価格は、投機的行動と超大国の中東政策の誤りによるものだ

2. IEAの主張

- 現在の石油高価格は、需給のタイト化によるところが大きい
- 現在の供給能力を維持するためだけで、毎年350万BDの新規油田開発が必要である
- 需要の増加を続ける中、印を中心に、革命的な省エネルギーを進める必要がある

19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



7. プログラム

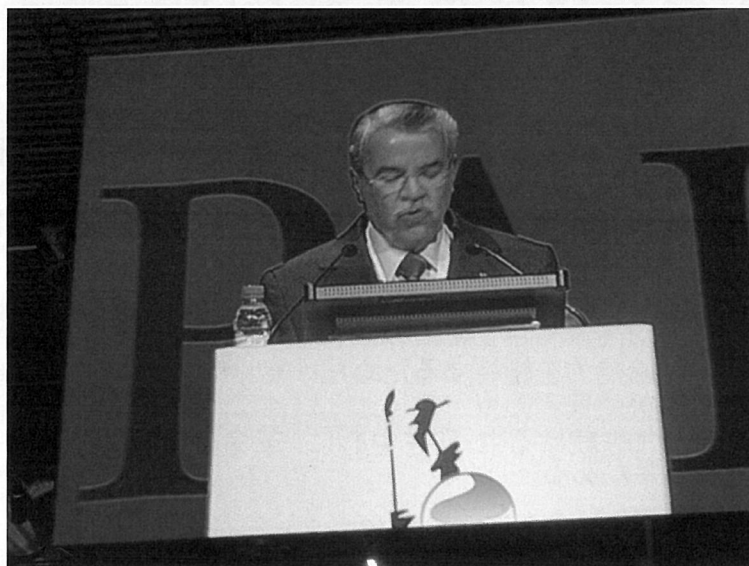
全体講演 4: Natural Gas: An Emerging Global Commodity での討議(カタール)



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



7. プログラム～デュハーストアワード
ナイミ・サウジアラビア石油鉱物資源大臣



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

7. プログラム ラウンドテーブル



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

7. プログラム セッションホール入り口風景



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



7. プログラム～スパニッシュナイト 巨大パエリアサービス



19TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



8. 閉会式:次期開催国 カタール国ブース



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



8. 閉会式 次期開催国 カタールへ大会本部が継承される

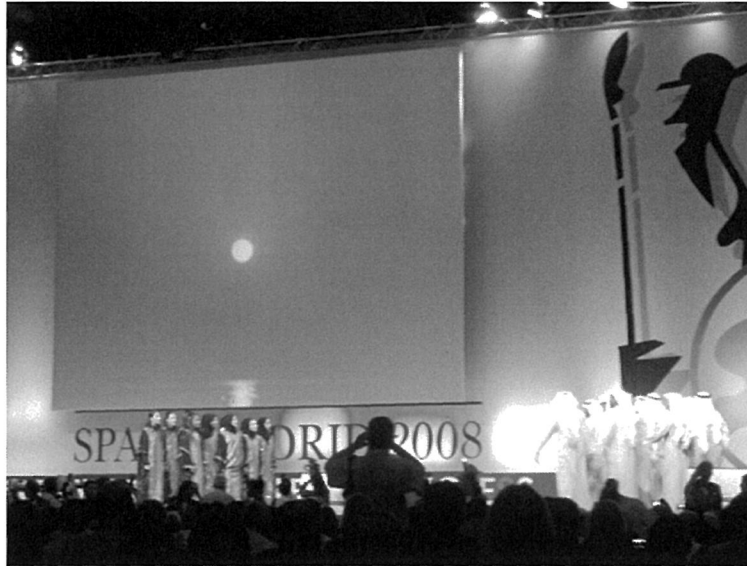


15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



8. 閉会式

次期開催国 カタールへ大会本部が継承される



15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS



大会参加者データ

合計参加登録者	4,300名	IFEM総使用面積	35,000㎡
青年学生	700名	展示ブース面積	15,300㎡
政府高官	35名	展示企業数	260社
CEO	500名		
ゲスト来場者	14,500名		
ジャーナリスト	550名		
メディア	315名		
講演者	590名		

出展 スペイン組織委員会

15TH WORLD PETROLEUM CONGRESS

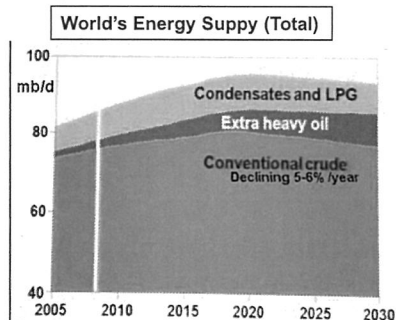
WPCマドリッド大会報告会 全体会議

世界石油会議日本国内委員会
副会長 関 誠夫

千代田化工建設㈱
常務取締役 横井 悟

2008年8月26日

全体会議



Schlumberger, Gould 会長

New Deliverability → 人と技術の確保が重要

Deep offshore and new "frontier" domains :

- Oil sands, heavy oil
- EOR
- Arctic regions
- Sour and tight gas
- CO2 sequestration

Critical importance of R&D, innovation and environmental stewardship.

Megaprojects requirements:

- Project management excellence
- Ability to take technical and financial risk
- Availability of experts and equipment in a booming market for projects

全体会議プログラム

Plenary 1: 持続可能な成長に向けてのエネルギー供給

- ヨーロッパからの展望 -

Plenary 2: 開会式、WPC優秀賞授与

Plenary 3: 供給可能性についての課題: 供給確保と需要の展望

Plenary 4: 天然ガス: 台頭する地球規模の商品

Plenary 5: 石油・ガス産業で進む環境負荷の少ない資源利用

Plenary 6: 未開発油田へのアクセスとインフラ投資

Plenary 7: 石油・ガス産業の社会的位置付け

Plenary 1: 持続可能な成長に向けてのエネルギー供給

- ヨーロッパからの展望 -



ロスネフト

- 今後とも着実な原油増産を行う
- 欧州への信頼できる供給者であり続ける



BP

現在の高価格は、石油資源の不足が原因ではなく
“将来の需要の伸びに供給が追いつかないだろう”
という見通しが原因の一つだ



Shell

Capturing and storing CO₂ is the only realistic
way to reduce emissions drastically while
continuing to deliver the energy the world needs
to grow and prosper

Plenary 2: 開会式、WPC優秀賞授与

WPC優秀賞・受賞会社と受賞理由

社会責任分野

① 中小企業

Enl Australia (アボリジニ社会へのガス開発の社会影響調査)
Overgas Inc. Bulgaria (オーバース社の社会的責任)
Pro-Natura International, Nigeria (より良好な統治、開発及び平和のための複数株主連携の推進)

② 大企業

Chevron Global (シェブロン社のHIV / AIDSプログラム)
Marathon Oil, Equatorial Guinea (バイコ島マラリアプロジェクト)
Petrobras, Brazil (Carnauba Viva)

技術開発分野

① 中小企業

China University of Petroleum in Beijing (ガス田開発技術)
Nexen Inc. UK (油田発見から開発に関するプロジェクト)
Sarkhoon & Qeshm Gas, Iran (含油廃水処理技術)

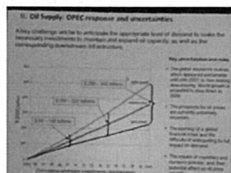
② 大企業

Chevron Corp. USA (開発技術)
Indian Oil Corporation, India (水素化処理技術)
Saudi Aramco (探鉱技術)



Plenary 3: 供給可能性についての課題

- 供給確保と需要の展望 -



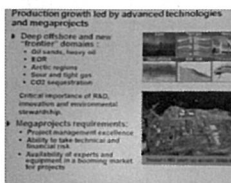
OPEC議長

- 世界経済の安定的成長のために上下流部門で巨額投資
- 原油生産能力を2012年までに400万BPSD増強
- 下流部門でも2012年までに300万BPSD増強
- 増産に見合う適切な需要が必要



ExxonMobil 会長

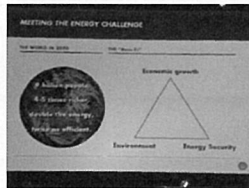
- Hydrocarbon の供給には不足はなく、今後ともエネルギーの主役であり続ける
- 但し、効率的で持続可能な使用方法が必要



TOTAL CEO

- 原油生産量は2020年の9,500万BPSDがピーク
- ガスも数年遅れて生産量のピークに達する
- 深海と New Frontier の巨大開発プロジェクトが必要
- IOCとNOCは巨大プロジェクトへの協力が必要

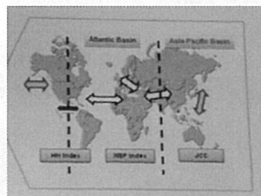
Plenary 4: 天然ガス: 台頭する地球規模の商品



Shell

原油今後のエネルギー環境

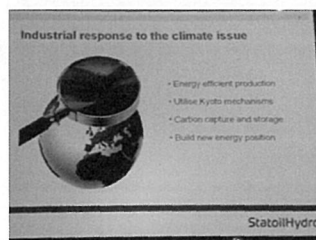
- エネルギー需要は2050年には現在の2倍
 - Easy Oil は期待が出来ず、Oil SandやOil Shale 等の開発困難なエネルギー開発が必要
 - エネルギー消費の増加はCO2の排出も増加
- 今後の対応
- エネルギー効率の改善
 - GHG排出規制に関し、Life Cycleを見据えた施策の展開
 - 画期的な新技術の開発(Oil Recovery、再生エネルギー、環境負荷の少ない石炭利用、原子力等)を進めることを主張



SONATRACH

- 天然ガスの需要増加はLNGによる対応が必要
- 巨大な初期投資を合理的にらしめる長期契約が必要
- ソナトラックはLNG輸出に注力する

Plenary 5: 石油・ガス産業で進む環境負荷の少ない資源利用



StatoilHydro

- エネルギー需要増加への対応は
 - エネルギー生産の効率化
 - 京都メカニズムの活用
 - CCS
- 新しいエネルギー産業の地位の獲得



Nexen

- 企業の倫理的な約束や地域社会との共生を図りつつ経済発展に貢献出来る社会的責任を果たすと表明
- CSRを企業の革新的な事業戦略に位置付け

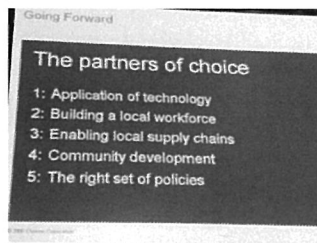
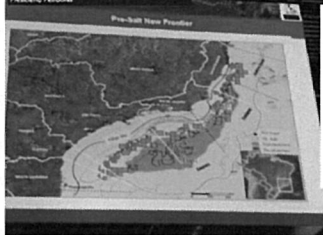
Plenary 6: 未開発油田へのアクセスとインフラ投資

Chevron: Investing Today and Tomorrow

- 資源開発投資は2004年比3倍の年間229億ドル
- 地域社会との共存が重要



S. Gaboriell
President, Petrobras



Petrobras

- Conventional Oilの供給増加は望めず、積極的な開発投資が必要
- ブラジルは深海での開発を加速している
- 今後の原油価格の見通しには不確実性が高い

Plenary 7: 石油・ガス産業の社会的位置付け



G. Goff
President, Specialty Business & Business Development

ConocoPhillips Mr. Goff

- 企業本来の行動に加えて、社会とのコミュニケーションや安全操業、環境への配慮が重要
- 企業活動の透明性の確保
- 不正活動の防止の基準作成



H. Labelle
Chair, Transparency International

Transparency, Labelle 会長

- ISOの26000 シリーズは、環境、人権、労働活動、企業統制、対消費者対策、社会貢献、公正な活動等を規定したCSRの基準



Gould
Chairman and CEO, Schlumberger Limited

Schlumberger, Gould 会長